

TECデモ【既存システム資産の分析ソリューション】

～アプリケーションの可視化を実現



WebSphere Studio Asset Analyzerは、メインフレーム及び分散系のアプリケーション資産を棚卸し、アプリケーション構造を可視化したり、変更に対する影響分析などを可能にします。

【こんなことでお悩みではありませんか】

- 開発してから長い年月を経て、ドキュメントも更新されていないため、アプリケーション構造がわからない。
- 仕様変更に伴う改変に対する影響範囲の特定に時間がかかり、漏れがあるため障害の原因になっている。
- アプリケーション全体を見直したいが、情報システム資産の規模も詳細には把握できていない。

【デモの価値】

- アプリケーション構造がビジュアルに表示され、可視化された状態をご覧いただけます。
- 影響分析(データ波及分析)がサンプル・データを通して、どのように把握できるかご理解いただけます。
- リソース解析の結果得られる統計情報(ソフトウェア・メトリクス)をサンプル・データにより参照できます。

WSAA による既存システム資産の分析・デモ概要

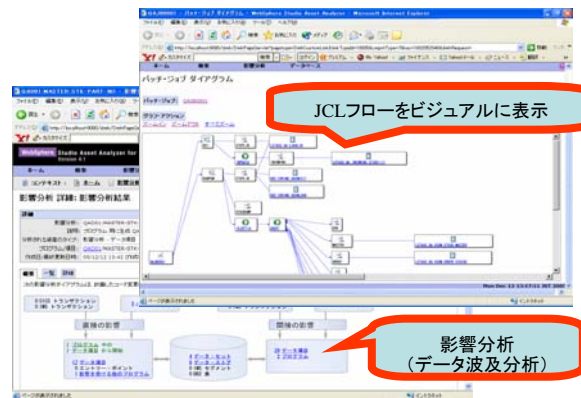
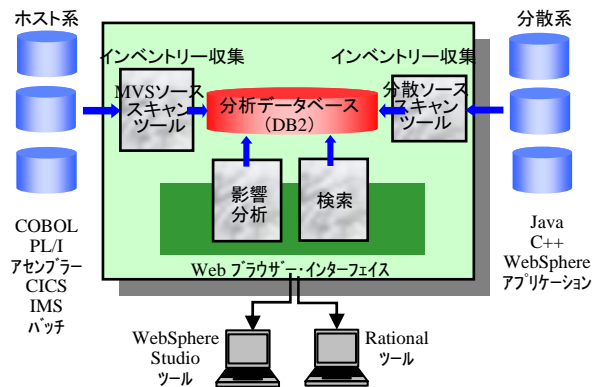
1) 既に解析済みのサンプル・データにより、次のような デモ・シナリオに沿って、ご紹介します。

- アプリケーション構造をブラック・ボックス化させることなく、可視化することにより、管理できる状態にするには [2007年問題]
- データ項目の属性変更、DB2の列名・データセット名が変更になった場合などの影響分析を迅速に、正確に実施するには [データ波及分析]
- COBOL、PL/I、JCL、トランザクションの定義情報を解析した棚卸結果(インベントリー収集)を管理するには [ソフトウェア・メトリクス]

2) お客様のサンプル・コードをお預りして解析した結果をデモにてご覧いただけます。

- PGM、Copy句、JCL等(100本程度まで)をWSAAにより解析
- 解析結果をWebインターフェースから、自由に検索
- 製品機能やカスタマイズで対応できる部分、個別に対応が必要な部分の切り分け評価

尚、実際のサンプル・コードの切り出し方法などについては、個別にご相談下さい。



【デモの流れ】

メンフレームに導入されている実環境を使用して、次のような手順でご紹介します。

【WSAAによる既存システム資産の分析・デモの流れ】

- お客様が日々困っている代表的な現状の課題を共有し、具体的にどのように解決できるかをご説明します。
- あるバッチ・ジョブ(JCL)から、プログラム(COBOL)、さらにはデータ項目への関連をビジュアルに表示します。
- 特定のプログラム中にあるデータ項目に着目し、その属性が変更になった場合の影響分析を実行します。
- リソースを解析した棚卸結果を、様々な角度から検索し、アプリケーション資産の全体像を把握します。

【WebSphere Studio Asset Analyzer 機能ハイライト】

- リソース解析結果はDB2テーブルに格納されるため、汎用的なSQLインターフェースで自由に検索が可能
- プログラムとデータ項目、トランザクション、バッチ・ジョブとの関連をクロス・リファレンスで表示
- データ項目がプログラム上で遷移する流れをトレースすることが可能(データ波及分析)
- 単なるソースのテキスト検索と異なり、オンライン・メニューから様々な高度な検索が可能
- PC上のパーサー機能ではなく、メインフレーム上で実行するため、パフォーマンスが良い
- 複合アプリケーション(例えばCOBOLやJavaアプリケーションの連携)でもEnd to Endの影響分析が可能

【対象製品】

- WebSphere Studio Asset Analyzer V5.1

【主な前提製品】

■ WebSphere Studio Asset Analyzer のランタイム前提条件

- ・z/OS V1.6 以降
- ・DB2 UDB for z/OS および OS/390 V7以降 (リポジトリをチューニングするには、IBM DB2 Utilities Suite for z/OS 内に RUNSTATS が必要)
- ・WebSphere Application Server for z/OS V5.1以降 または、Windows Server 2003 Datacenter/Enterprise/Standard (SP1以降) または WebSphere Application Server V5.1以降 (AIX 5L 5.2 または 5.3 を実行するサーバーまたはワークステーション上)
- ・WebSphere でサポートされている Java Runtime Environment (JRE) (例えば、WebSphere Application Server V6.0.1 では JRE 1.4.2)
- ・DB2 Connect Enterprise Edition V7.02以降 (分散環境のWASを使用する場合)

■ WebSphere Studio Asset Analyzer でのスキャン(関連ソースまたはランタイム資産)前提条件

- ・DB2 UDB for z/OS and OS/390 V7 以降
- ・IMS V6 以降
- ・CICS Transaction Server V2.2 以降
- ・Enterprise COBOL for z/OS V3.3 以降
- ・Enterprise PL/I for z/OS V3.3 以降
- ・High Level Assembler for MVS and VM および VSE V1.4 以降

●会社名、製品名およびサービスは、それぞれ各社の商標または登録商標です。●掲載された情報は 2008 年 3 月現在のものです。事前の予告なく変更する場合があります。

●TEC (Technical Exploration Center) ではSW導入ご検討のお客様へデモや体感ハンズオンセミナーを実施しています。

日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業

<TEC#z006>

本デモに関するお申込・お問い合わせは弊社担当営業にご相談下さい。